

29

バフ研磨に関わる磨きを追及し、サービスを提供する コンシェルジュ(課題解決支援)企業



Chuo-Buff MFC

TEL.03-3895-4762 FAX.03-3895-6245

URL <https://www.chuo-buff.com>

有限会社中央バフ製作所



倉澤 諒
代表取締役社長

代 表 者：代表取締役社長 倉澤 諒
所 在 地：〒116-0001荒川区町屋1-26-5
資 本 金：300万円
従 業 員：10人

創 業 年：昭和30年
業 種：バフ研磨工具の製造・販売・開発
事業内容：バフホイルの製造・販売・開発
バフ研磨・表面処理加工業務
バフ関連機械・研磨工具の販売

バフ研磨“専業”を進化させる事業展開

社名の通り、創業者の倉澤森三氏が高級な金属製品や貴金属の研磨に威力を発揮するバフ研磨の将来性を確信して創業した。以来、研磨用バフ一筋。2代目の倉澤正行氏が、高度成長期を通じて爆発的に普及した腕時計や指輪などの貴金属用の研磨バフで事業基盤を固め、その技術力が評価されて歯科器材のバフなどの分野でも顧客層を広げた。3代目で現・代表取締役の倉澤 諒氏も「専門業者の鋭い感性で技術研さんに努め、顧客サービスに徹する」経営を基本に、バフ研磨専業の強さを進化させ、バフ研磨に関わる課題をすべて解決する「バフコンシェルジュ」という独特の企業体制を整えて、時代ニーズに対応する事業展開を図っている。

ものづくりの新業種「バフコンシェルジュ」企業

コンシェルジュとは、お客さまのあらゆる要望に対応する仕事のこと。その看板にふさわしく、同社は多様なニーズが交錯するバフ研磨の分野で、コンシェルジュサービスを提供する事業体制を整え、それを基本業務に据えた新たな業態「コンシェルジュ」企業を確立した。

研磨に関連する業種は、研磨を自社内で行うか、アウトソーシングするかに分かれるが、その両方のニーズに応えるために、情報ネットワークを構築し、その情報力でユーザーサービスの差別化を図っている点に特徴がある。

具体的には、バフホイルメーカーとバフ商社としての一般的なつながりだけでなく、エンドユーザーとの交流を深め、顧客からの問合せを大切にして、新鮮な研磨情報にすばやく対応し、顧客仕様のオンリーワンのバフの提供や最適な研磨方法を提案できるようにしている。

製造・販売面では、16mmの豆バフから450mmの大型バフまで多様な規格サイズに対応するとともに、ミシン縫製技



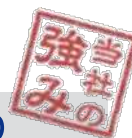
術を使った特殊用途のバフ、小型形状の貴金属の磨きに対応した軸付バフなど、評判となった製品は数多い。

磨き業としては、バフ研磨にとどまらず、電解研磨やバレル研磨を駆使して、表面加工全般の高品質の磨きを追及し、ステンレスやアルミのほか、ABSやアクリルなどの樹脂研磨も手掛け、サービス範囲を広げている。

スモールメーカーズの真髓を追及！

3代目の倉澤 諒氏は、新世代のネットワークを構築して、事業展開に新味を増している。MACC プロジェクトの分科会「あすめし会」に加わって経営学を実践し、産学連携による新事業・新商品開発を模索中。

今後、ニーズの掘り起こしに主眼を置いて、伝統技術を最新化しつつ、「機敏に動くスモールメーカーズの感覚を伸ばし、多品種・少ロットの製品づくりとバフコンシェルジュの戦略で活路を拓いていく」方針だ。



バフホイルメーカーの枠を超えた製・販・サービスの三位一体で「磨き」のニーズに応える！

バフ研磨の専門企業である。60年を超える社歴を刻んで積み重ねた技術とネットワークを基に、多様なバフホイルを製造販売する「メーカー」、研磨工具を手配する「商社」、バフ研磨や表面加工を請け負う「磨き業」の三位一体の事業展開が特徴。また、都内で唯一、研磨剤の含浸処理設備を完備し、自由自在のバフ作製が得意である。自慢のフットワークで現場に出向き、研磨のコンシェルジュとしてフェイス to フェイスのサポート業務を売りにしている。